

シンガポールって？

シンガポール共和国、通称シンガポールは、東南アジアの主権都市国家かつ島国である。マレー半島南端、赤道の137km 北に位置する。同国の領土は、菱型の本島であるシンガポール島及び 60 以上の著しく小規模な島々から構成される。

設立：1819年2月6日

面積：718.3 km²

通貨：シンガポールドル

人口：539.9万（2013年）



子どもが眼鏡を掛けている率が高い。

Child care と Kindergarten に通う子どもは67.7%

シンガポールの保育料は高いが、補助金があったり、低所得者でも探せば何らかの教育を受ける事が出来る施設がある。

キャタピラ幼稚園

子どもの潜在能力を伸ばすことに重きを置くと共に、研究リサーチ指導者（保育士、教師）教育を通して、地域社会で共に学習の輪を構築する事を目指し、教育の模範となるように努めている。

開園時間：月～金 am7:00～pm7:30 土曜 am7:00～pm14:00

園内に入る場合必ず子どもは検温、大人は消毒を行っている。これは、サーズが流行してから厳しくなった。

研究の為に設立されセンターの先生たちは選ばれた人（80%が大学卒業）が行っている。他の保育園や幼稚園では一般的ではない。1月～新学期が始まり、11月が年度末になる。

園の目標の中に「職員は園児の事を知っている」がある。

限られたスペースを広く見えるように設計している。室内はオープンスペースだが、仕切りが作られているので自分のクラスがどこなのかわかっている。2歳児クラスは落ち着いて生活できるように個室になっている。

1月の新学期を前になると自分の荷物を自分で運び入れる場所を決めたり、持っていくたい玩具を選んだりする。2か月～6歳の子どもが通っている。

保育士の配置→乳児1：3 2歳1：7 3歳1：12 4歳1：15 5歳1：15 6歳1：15

一人当たり必要な平米数：乳児→5平米幼児→3平米

保育料→2～18か月：\$1600（14万円）2～6歳：\$1350（11万円）で主に開発費に充てられる。運営費は寄付金で（80%）成り立っている。シンガポール人と住む権利を持っている人は政府から補助金を貰っているが母親も働いていないと貰えない。補助金以外にも政府に申請する事が出来る為、お金が払えない人はどういった制度を利用している。

英語と中国語の2つの言語を使用している。（シンガポールのチャイルドケアでは英語の他に1言語使用する：中国、マレー、インド）シンガポールでは、幼稚園保育園が義務化されていない。保護者は小学校に行く準備が出来ているか気にする親が多い。→シンガポールは競争社会の為小学校に行くとすごい教育が待っている。

キャタピラコウブでは、どのように自分で学んでいく事が出来るか訓練を行っている。保育園：チャイルドケア幼稚園：プレスクール。Q:シンガポールでの保育者の免許はどうなっている？A:高卒 2年前に幼稚園と保育園が一緒になったがやっていることは同じ。政府は大学卒業だけでは不十分だと言い、技術の方が大切だと言っており、理論だけではなく技術を育てる動きが始まっている。

Q:男性保育の割合は？A:0に近い→給料の問題や、保護者が男性を受け入れない傾向にある。キャタピラでは男性保育士がいる良さを証明したいとしている。

Q:職員を育てる上で一番大切な事は？A:センターも生徒もライセンスの更新が必要で、少なくとも20時間のトレーニングを受けて更新する。キャタピラでは1年間に80～90時間のスタッフ研修を行っている。年間4回ワークショップ形式でもトレーニングを行っている。

Q:障害を持っている子どもに対してどの様な対応をしていますか？A:特別学校があり、そこに通うようになっている。基本的に3歳以下の子どもに対しては決めつけないのが普通。シンガポールでは国に貢献する事が概念にあり、教育に力を入れてる。人格形成も大切にしたいが、すると教育水準が低下してしまうと言う思いがある。両立させなければと思っているがまだうまく行っていないのが現状。



1つのビルの中に様々な訓練を行う施設が入っている。



様々な訓練を受ける事の出来る施設の中にある。限られた空間を最大限生かせる様にデザイナーによって設計。開放感のある室

皆の前で本の読み聞かせを行う時に後ろの子どもも見やすいように3段のベンチを使っている。



シンガポールの子どもたちは室内のエアコンの効いた場所で過ごす事が多く、園内に広いテラスを設け、砂場も併設されている。風や雨を感じながら遊べるように一部屋根を取り除く等の工夫もされている。

日本人幼稚園

志満育英会が1989年にシンガポール日本人幼稚園として開設。

教育目標：心身の健全なる発達を第一とし、思いやりや感謝の気持ちを持った心の豊かさを伸ばす。

集団生活の中で、それぞれの個性を發揮し、友達との関わりの中からお互いに協力し、譲り合う心を養い育てる。

日本人会からの要望で設立した。土地は政府から30年契約で借りている。

保育時間：9:00～15:00 延長保育はおこなっていないが15時～16時は預かる事もある。

17名の日本人教諭が日本語で保育を行っている。（日本語以外の言語は使用していない）

シンガポールは年間を通して夏のため、日本の四季を感じられるように壁面やオブジェ等を工夫している。また、3～5年で日本に帰る事が多く為日本に帰った時すんなり学校に入れる様に日本の事も大切にしている。隣には日本人中学校が隣接しており、交流を行っている。内科検診は日本人医師が来園、歯科検診はシンガポール人の為英語。

在園時の2割が両親のどちらかが日本人以外、外国人は2人在籍している。外国人の中には日本に憧れて来る子もいるが、日本語の理解ができないと入園を断る事もある。園内には現地の人が働く姿が見られるが、日本人の働く労働パスの枠を広げる為に雇用している。

保育料は2歳:\$950 3歳以上:\$900 第二子は\$30安い

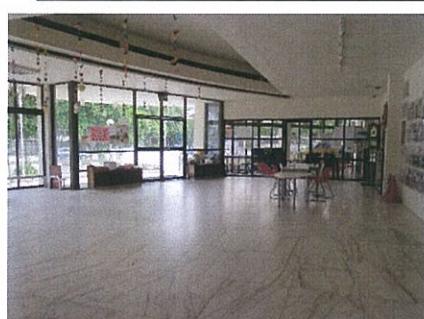
7～8割が企業が負担している。

クラス編成：満2歳～年少→20名 年少→1クラス28名で大人3名 年中→1クラス30名大人1名アシスタント1名 年長1クラス32名大人1人アシスタント

卒園後の進路について：16%日本に帰国し日本の小学校に行く。83%日本人学校進学。インター校進学。

1日の流れ：登園→朝の自由遊び→朝の会→主な活動→給食→イングリッシュアナウンス→帰りの会→降園
職員はどの様に集めている？：日本面接を行い3～4年シンガポールで働き帰国する事が多い。

日本のガイドラインを基に保育がされている。



玄関は開放的な空間になっている。



保護者がボランティアで壁面等を作成する。



給食は自園調理を行いアレルギー等の対応も事故が無いように考えられている。



年間を通してプールでの水遊びを行っているがバスタブ扱いにしている。園庭は広く芝生を使用（最近は人工芝が主流になって来ている。果物の木がたくさん植えてあるが食べるのは職員で、子どもは食べない。

トゥーバイトゥーセンター

目的は：子供たちは遊ぶために来ている。中華系ではない人が、中国語を覚るために来ている事が多い。中国語を遊びを通して覚える。聴く→話す→読む→書く の順でやっている。勉強ではなく遊びや経験を通して行っている。保育士1人は英語、もう一人は中国語を使用している。

午前中4時間の保育を行い保育料\$700で補助金はない。午後は小学校に入る前（6歳）を対象にダンス、音楽、美術等のクラスが開かれる。料金は1科目3ヶ月:\$300 2科目3ヶ月:\$550 10科目3ヶ月:\$1700 4歳児クラスの見学では様々な国の人たちが在籍しており、中国語を学んでいる。（中国語を話せるようになって欲しいと保護者の思いが強く希望して通っている子が多い）小さい頃から中国語に触れている子と、6歳から触れている子ではアクセントが違ってくる。

その他カリキュラムでは、運動時間は外部から専門の人がくる。パブリックスピーキング（皆の前で話をする場面を設ける）



玄関を入ると事務所（受付）がある。



4歳以上のクラスでは中国語を教えている場面が見られた。シンガポール以外の国の人たちも上手に中国語を使っている。また、室内の掲示には中国語、英語が使用されている。



3歳までのクラスでは少人数のグループに分かれしており、好きな遊びをしたり、踊ったりして体を動かしている場面が見られた。

タッチチャイルドケ幼稚園

公園のアパートの部屋を2つ使い保育を行っている。小さなグループで活動を行い。1クラスが3グループに分かれており、オープンスペースで保育を行う。

保育料：\$ 790で\$ 300の支援を受け取る事が出来る。保育料が払えない場合更に申請する事が出来る。園内では英語、中国語を話す保育士がいる。

6時～19時で開園している。特別支援の必要な子どもたちも受け入れており、2歳～6歳児をお毎年6名入ってくる。受け入れる基準としては椅子に座って話を聞くことが出来れば大丈夫。

小学校に入学出来る様にしている。

一緒に過ごす事でのメリットは、色々な人がいる事を知り、広い心、優しい気持ちが持てるようになる。保護者にとっても同じ。

小学校との連携について：進学するのあたり、レポートを提出する。その後はそう学校からのリクエストに答える形で子どもの様子を伝えている。

園では統合保育と言う形のプログラムを行っている。

支援の必要な子の保護者に対して：日本の様に保護者の気持ちも考えながら2, 3年かけて支援が必要と言う話はしない。ストレートに話をする。病院で診断をしてもらう方がいいとの提案に保護者が受け入れない場合退園してもらう事もある。診断が出た場合政府から補助金を受け取る事が出来る。

外部からの講師を呼ぶ事もあり、今回はインターネットに対する意識づけのプログラムを行っていた。（絵本等使用）インターネットやゲームは時間を決めて行う事や、安全に使う、中毒にならない様に伝えしていく。



マンションの室内での保育だがオープンスペースになっているため広く感じる。低い棚での仕切りがされている。園庭はないが団地の一角に遊具が設置されており、遊ぶ姿が見られる。



ELF 幼稚園（キリスト）

高級住宅街に位置し、住宅を改装して幼稚園にしている。

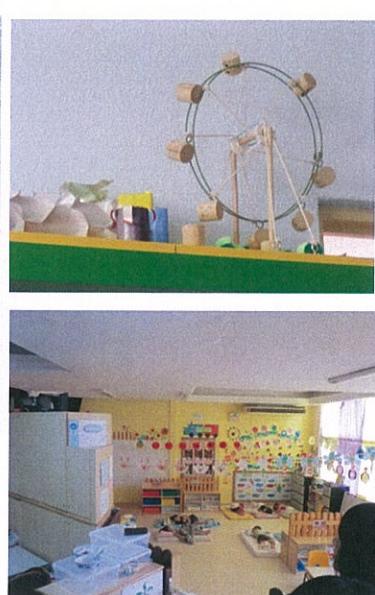
2階は30か月～3歳児までが過ごし、3階は4歳～6歳が過ごす。

1日の流れ：運動→朝食→英語→遊び→果物食べる→中国語→昼食→午睡

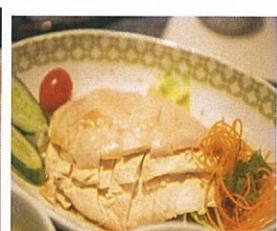
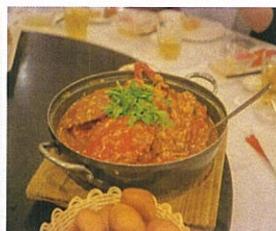
1日の50%は外で過ごす様にしている。大きくなるにつれて外での活動時間は短くなって来る。小学校に行くまでの間しっかり体を動かす事を大切にしている。しっかり体を動かす事で細かい作業もしっかり出来る様になる。

パブリックスピーキング（みんなの前で話をする）事をやっている。例：セントサ島の模型を作り人前でプレゼンを行う。

幼稚園のオーナーは聴覚の専門家で、独自で聴覚の検査等もおも行っている。



マリーナエリアは近代的なビルが立ち並び、光の演出が夜間行われる。シンガポール動物園では広大な敷地の中で檻の無い展示方法になっている。頭上をサルが綱渡りをしたり、道路をイグアナが歩いていたり驚かされる。



シンガポールのシンボルであるマーライオンはマリーナエリアとセントサ島の2か所にある。沢山のアクティビティがあり1日遊べるエリアになっている。

シンガポールで有名な食べ物「チキンライス」は日本のチキンライスのイメージと違ったが美味しかった。

シンガポール研修に参加し、日本は島国という事もあり閉鎖的だなと感じさせられた。

保護者が保育園や幼稚園に求めるものも少し違い、英語、中国語を話せる様にしてほしい、小学校に行って困らないようにしてほしい等の要望が多い様に感じた。競争社会ならではなのかもしれない。

保育料の高さには驚かされたが、政府の支援等もしっかりとおり収入の少ない家庭も通えるようになっていた。また、保護者が園に求めるものによって選べる選択肢は多いと感じた。

しかし、支援を必要とする子どもに対しては日本が進んでいると感じた。世界で5本の指に入る高学歴のシンガポールではそれを優先し、皆が同じ空間で過ごせる環境つくりが出来ていなかった。(ボランティア等で運営している園では、上手く統合保育が行われている。)政府としては両立させたいそうだが、早くそうなる事を願いたい。

見学した園の中には、スタッフ全員が園の子どもの事を知っている事を目標にしている園もあり、法人の思いと同じだなとうれしく思った。また、子どもが自分で選べる環境も作られており、次の学年に進級する時、自分の荷物を運び、自分でロッカーを選んだり、思って進級したい玩具を選んだり、楽しみながら進級を迎えることが出来ると感じた。

また、日本人で足りない部分に、人前で自分の思いを発表する事だと思う。シンガポールの園では小さなころから人前で自分の思いを発表する機会をプログラムとして行っている。是非日本でも取り入れていけるといいなと感じた。

シンガポールの人口の1%が日本人と言う事で多くの日本人が暮らしている中で、日本人幼稚園で大規模で運営している所は1か所しかない。保護者の選択しが少ないように感じる。日本人のスタッフで運営し、3、4年で日本に帰ると言う事だが、海外で働く事で色々な人がいる、いろんな文化があり、色々な刺激を貰えるようを感じる。

シンガポールの色々な場所を回りながら街の様子を見ながら園を回る事が出来、このような生活があり、子どもに対する保育が行われている等シンガポール全体として見る事が出来て良かった。